

清友

No. 66

2015年2月

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541



清水公園
金乗院境内の冬ボタン



参加者全員が「ひとつこと」

清掃退職者会 新春の集い

今年は今會員増に 弾みがつく予感

1月31日、小石川後樂園涵徳亭で「新春の集い」を開催。會員26名、東京清掃・上部団体来賓3名の29名が参加しました。

集いは、小林事務局次長の司会で進行、堀田会長は主催者挨拶で「健康の保持と仲間づくり」の大事さを強調しました。来賓の桐田東京清掃書記次長は「退職者会の社会運動への貢献」を評価した上で「現退の連携」の推進を、

本郷自治退都本部会長と小林都庁退副会長は「安倍政権の暴走をとめる闘いと退職者運動の強化」を訴えました。また、前会長の北條さんは、乾杯の音頭に先立ち「會員拡大への努力を惜しまぬよう」叱咤しました。挨拶の中身をしっかりと受け止め、今後の運動に活かしていきたいと思えます。乾杯の後、懇親に移りました。初参加が8名と多く、久しぶりの再会に話しの花が咲き、和やかな交歓の輪が広がりました。

参加記念品として、柳副会



北條前会長が
乾杯の音頭



主催者挨拶する堀田会長



都庁退連合
小林副会長



自治退都本部
本郷会長



東京清掃
桐田書記次長

長提供の干支守りと七福神手ぬぐいが配られると、大いに盛り上がり、舌も滑らかになった頃合いを見計らって、すっかり恒例になった参加者全員「ひとつこと」。今年も、とても「ひとつこと」では済みません。健康や趣味の話し、地域活動など様々な分野での活動、現在の世相を憂える発言など、元気の素を分ちました。

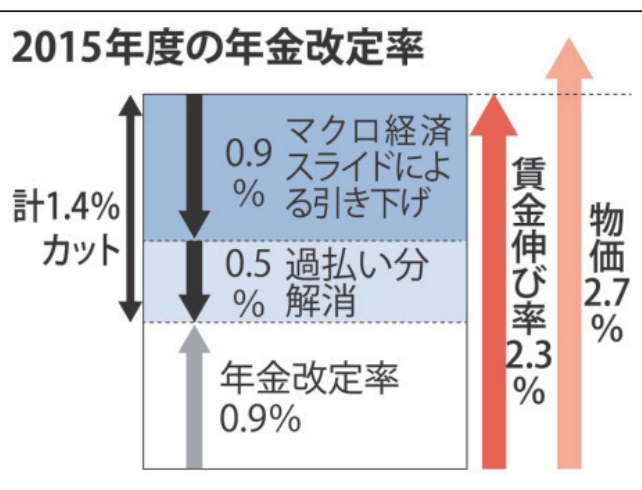
名残を惜しみつつ、最後は、戸張副会長の音頭で団結ガンバロー。例年に増して雰囲気がよく、何やら今年は、會員増に弾みがつきそうな予感が漂ってきました。

15年度年金額0.9%増

年金抑制システムが発足後初めて適用 特例水準解消による減額は今回で終了

厚生労働省は1月30日、15年度の年金額を0.9%引き上げると発表しました。

総務省調査の全国消費者物価指数は前年比プラス2.7%でしたが、名目手取賃金変動率が2.3%にとどまったため、年金額改定は消費者物価指数と名目手取賃金変動率の低い方が適用されて、改定額のベースは2.3%でした。



しかし、「マクロ経済スライド」により0.9%抑制され、特例水準解消の0.5%抑制が加わって、改訂率は0.9%増に圧縮されました。

上げ幅は、国民年金満額受給者で月608円増、厚生年金の標準世帯（夫が平均年収で40年働き、妻が専業主婦のケース）で月2,441円増になり、4月分（6月支給）から額が変わります。なお、今回抑制された標準世帯の年金額は、797円に相当します。

今回の改正で、「マクロ経済スライド」が04年度の発足後始めて適用されました。この間、デフレが続いたため、「物価上昇時にのみ年金引き上げを抑制する」という「名目下限方式」に基づき、スライド適用が見送られてきたからです。



退職者会活動日誌

- *12月4日の第3回幹事会以降1月14日の第9回三役会まで
- ▼12月4日、幹事会終了後、第3回拡大旅行部会。親睦旅行の総括をしました。
- ▼12月5日、都庁退役員会が自治労働本部会議室で開催され、岩淵会計監査（幹事）が参加。年間活動計画等を審議しました。
- ▼都庁退役員会終了後、都庁退学習会。柳副会長、戸枝会計、岩淵会計監査が参加。川端自治退事務局長を講師に「年金・医療・介護をめぐる政府方針と今後の取組みのポイント」を学習しました。
- ▼12月6日、「強行採決から1年・秘密保護法施行するな！大集会」が日比谷野音で開催され、3名参加。銀座までデモをし、秘密保護法廃止を訴えました。
- ▼12月13日、「川内原発再稼働反対！反原発渋谷大行進」が行われ、代々木公園で集会後渋谷駅周辺デモ。1名参加。
- ▼事務局会議・事務業務は4回。行事企画、機関紙・定例連絡等送付、新春の集い準備などを行いました。



「マクロ経済スライド」とは？

現役人口の減少や平均余命の伸びに合わせて、「社会全体の公的年金制度を支える力（現役世代の人数）の変化」と「平均余命の伸びに伴う給付費の増加」という給付と負担の変動に応じて、給付水準を自動的に調整する仕組みで、04年の年金制度改定により導入されました。今回のケースでは、現役世代の減少率0.6%、平均余命増加率0.3%が適用され、抑制率は0.9%でした。率は今後も見直されていきます。

「特例水準解消」とは？

物価が下がれば年金額も下がることになっていきますが、99〜02年は特例法でマイナスの物価スライドを行わずに年金額を据え置いたため、年金額の水準が本来額より2.5%高くなっているとして、12年に法律を改正、13年〜15年の3年間で解消することになっていました。この「特例水準解消」は今回で終了です。

デフレ下でのマクロ経済スライド適用に反対 短時間労働者の社会保険適用拡大は無条件で

政府の年金制度改革 検討状況と自治退の主張

政府は、13年12月成立の「社会保障改革プログラム法」等に基づく社会保障改革を審議しています。審議状況によっては、今国会で法案が提案されるものも出てきます。政府の検討内容を把握し、今後の運動に活かすため、12月15日、川端自治退事務局長を講師に、年金・医療・介護問題の都庁退学習会がもたれました。今回は、年金に焦点をあてて課題を整理します。



川端自治退事務局長

マクロ経済スライド

「プログラム法」に「デフレ下でもマクロ経済スライドを発動し、早く年金額を抑制する」よう盛り込まれ、17年までの改正が目論まれています。

04年のマクロ経済スライド成立時、「名目下限方式」が導入されました。自治退は、あくまでも「名目下限方式」の堅持を、主張しています。

また、マクロ経済スライドを継続すると、国民年金の金額が下がりすぎて、生活保障

社会保険適用拡大

機能を失うという問題があります。自治退は、基礎年金部分へのマクロ経済スライドの適用除外も主張しています。

年金改善の最良策は、支え手を増やすことです。そのためには、短時間労働者の被用者年金適用拡大が必要です。

検討されている適用拡大条件は、①週労働20時間以上、②月賃金8.8万円以上、③1年以上勤務、④学生除外、⑤企業規模501人以上強制適用です。

自治退は、①20時間以上で当面はやむなし、②月賃金は5.8万円、③その他の条件は不要と主張しています。

その場合、低賃金労働者の取扱いが問題になります。自治退は、「雇用主の掛金あり・労働者の掛金なし↓半額の所得比例年金受給」の「僅少労働年金制」を主張しています。

高齢期就労と年金受給

働き続けたいと希望する高齢者に就労機会を広げることが、生き方を豊かにし、人口減少対策や年金財政にも貢献します。ただし、支給開始年齢の引上げは認められません。自治退は、受給開始年齢の弾力的選択制や在職高齢年金の見直し等、働き続けることへの意欲向上策を求めています。

高所得者の年金受給

これまで、①税で負担されている基礎年金の2分の1を

所得に応じて段階的に減額する、②年金課税見直しにより負担する等の案が、検討されてきました。自治退は、保険給付である年金の減額は不適當なので、一旦給付しクロールバック（払戻し制度）する方式の導入を主張しています。

また、「高所得者」の範囲の設定は、受給者の納得を得て実施すべきと主張しています。

年金課税の見直し

年金課税について、①給与所得に比べ控除が大きい、②遺族年金・障害年金が非課税なのは不適當等の指摘があります。年金は社会的扶養なので控除が大きくて当然で、応能負担原則に立脚すべきです。遺族年金への課税は、制度の沿革から旧軍人家族給付と整合的に検討されるべきで、障害年金は、その目的からして非課税を継続すべきです。

一方、非正規労働蔓延の温床になっている配偶者控除の廃止は、年金受給者の場合、単純に廃止すると税金が上がらざるだけにしか作用しません。慎重な議論が必要になります。

今年も現役世代の闘いを応援

東京清掃の団結旗開きは1月14日、例年同様、清掃会館隣のホテル・メトロポリタンエドモントで開かれ、23区・清掃一組当局、各級議員、上部団体・各種友誼団体と本部・支部あわせて約270名が参加しました。

染書記長の司会で始まり、吉田委員長は主催者挨拶で、

東京清掃団結旗開き 2015



左から堀田会長・戸張福会長・柳副会長・西川前委員長・吉田現委員長



堀田会長と保坂世田谷区長が乾杯の音頭

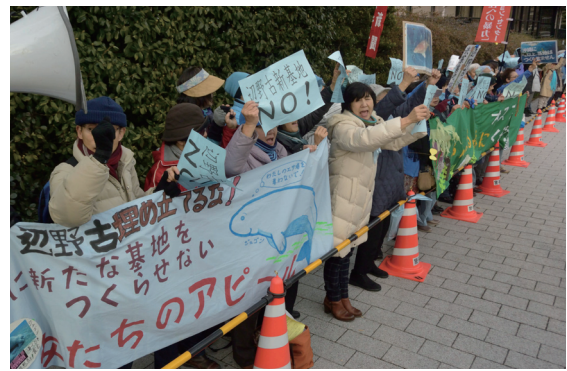
「清掃労働者の将来展望を切り拓くための闘いを、強力に押し進めていく」と、決意を示しました。来賓挨拶は西川区長会会長、宮本自治労働都本部委員長、小川特区連副委員長。今年の挨拶では、「資本主義は必然的に格差を生み出す」と説いて注目を集めているトマ・ピケティが話題になりました。

恒例の鏡開きは、堀田会長(元委員長)、西川前委員長、戸張副会長、柳副会長、吉田現委員長と当局側理事者により行われ、堀田会長と保坂世田谷区長が乾杯の音頭。退職者会は三役・幹事7名が参加し、ごちそうを楽しみつつも、各地・各方面の参加者との交流を深めました。今年も、東京清掃の闘いが前進することを願い、現役世代を応援していきたいと思えます。



安倍政権の暴走を許すな

安倍政権は、日米ガイドライン改定や戦争関連法案の国会提出、辺野古の新基地建設、労働法制改悪、原発再稼働などへ突き進もうとしています。こうした動きを止めようと、通常国会召集日の1月26日夜、「安倍政権の暴走に反対する国会前行動」が取り組まれ、2500人が結集しました。参加者は、「戦争反対、9条守れ!」「戦争する国、絶対反対!」「安倍政権の暴走を止めよう!」等と、国会議事堂に向けシュプレヒコールしました。



安倍は沖縄の声を聞け!

1月25日、「辺野古に基地はつくらせない国会包囲ヒューマンチェーン」が行われ、国会をぐるり一周、辺野古の海を象徴するシンボルカラーの「青」で埋め尽くしました。沖縄の民意は明確です。県知事選も衆院選も「辺野古の新基地建設反対」の声を示しました。それにも関わらず安倍政権は基地建設継続を強行しています。民意を全く無視する暴挙です。安倍政権に対する怒りが大きく広がり、7千人が結集しました。